

# あいちトリエンナーレ2013

## パフォーミングアーツ



揺れる大地 - われわれはどこに立っているのか: 場所、記憶、そして復活

Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection

ままごと *mamagoto*

藤本隆行 + 白井 剛 *FUJIMOTO Takayuki + SHIRAI Tsuyoshi*

やなぎみわ *YANAGI Miwa*

梅田宏明 *UMEDA Hiroaki*

イリ・キリアン *Jiří KYLIÁN*

アルチュール・ノジシエル *Arthur NAUZYCIEL (オルレアン国立演劇センター)*

清水靖晃 + カール・ストーン *SHIMIZU Yasuaki + Carl STONE*

ARICA + 金氏徹平 *ARICA + KANEUJI Teppei*

ジェコ・シオンポ *Jecko SIOMPO*

マチルド・モニエ *Mathilde MONNIER*

ペーター・ヴェルツ + ウィリアム・フォーサイス *Peter WELZ + William FORSYTHE*

サミュエル・ベケット *Samuel BECKETT*

向井山朋子 + ジャン・カルマン *MUKAIYAMA Tomoko + Jean KALMAN*

プロジェクトFUKUSHIMA! *PROJECT FUKUSHIMA! (総合ディレクション: 大友良英)*

ほうほう堂 *Ho Ho-Do*

AICHI TRIENNALE 2013 *Performing Arts*

2013.8.10 — 10.27

ままごと THEATER

『日本の大人』 **世界初演** 会場:小ホール

8月10日(土)11:00/15:00 8月11日(日)11:00/15:00 8月12日(月)19:00  
8月13日(火)15:00/19:00 8月14日(水)19:00 8月15日(木)11:00/15:00

6/29  
発売

◎全公演アフタートーク有 ○Pコード:429-164

【豊橋公演】あいちトリエンナーレ2013特別連携事業

8月17日(土)19:00 8月18日(日)11:00/15:00 会場:穂の国とよはし芸術劇場PLAT

前売:3,000円 当日:3,500円 学生:1,000円 小学生以下:500円 \*学生、小学生以下の当日券取扱有

グローバルな視点からスケール観のある独自の世界を描いてきた柴幸男が取り組む、子どもも大人も楽しめる作品。現在の子どもたちが創り出すであろう未来、その子どもたちがいつか辿り着くであろうはずの未来、さらに大人になってもまだ続いていく「遠い未来」を思考しつつ、大人の振る舞いや役割から「子どもの時間」の延長上にある「大人の時間」「大人の姿」を描き出す。子どもでも大人でもいい。私たちは何者で、今どこにいるのだろうか？

作・演出:柴幸男

出演:大石将弘(ままごと)、秋葉由麻、高田博臣(劇団うりんこ)、高野由紀子(演劇関係いすと校舎)

mamagoto "Mr.children" \*World Premiere Aug.10(Sat.) to 15(Thu.) 協力:公益財団法人セゾン文化財団



【朝がある】 photo:青木可

1982年愛知県生まれ、制作家・演出家の柴幸男が主宰する劇団。柴は2010年に『わが星』で第54回岸田戯曲賞を受賞した。何気ない日常の機微をすくいとる戯曲と、ループやサンプリングなど演劇外の発想を持ち込んだ演出が特徴。代表作に、ループする1人芝居『反復かつ連続』、全編歩き続ける芝居『あゆみ』、ラップによるミュージカル『わが星』などがある。今年はいちトリエンナーレのほか、瀬戸内国際芸術祭に参加するなど、各地で創作・公演を行う。

藤本隆行 + 白井 剛 DANCE+MEDIA ART

『Node/砂漠の老人』 **劇場版世界初演** 会場:小ホール

8月23日(金)19:00 8月24日(土)14:00 8月25日(日)14:00 ◎23日・24日、アフタートーク有

6/29  
発売

前売:4,000円 当日:4,500円 学生(前売):2,500円 ○Pコード:429-165

舞踏、コンテンポラリーダンスとデジタルテクノロジーを融合した最新作。3.11以後の日本が置かれる未曾有の現実を寓話的に表現する。白井のほか、70歳を超えてなお強靱な肉体を保つ舞踏家の吉本大輔、ダムタイプの川口隆夫と平井優子、ストリートや武術のテクニックを持つカズマ・グレンが出演。気鋭のプログラマー/SEが参加し、辺見康孝のバイオリン演奏と映像や照明との同期、リアルタイムの音生成など、多彩な演出効果を施すマルチメディアパフォーマンス。

ディレクション・照明:藤本隆行(KINSEI R&D) 振付・出演:白井剛(AbsT)

出演:吉本大輔(舞踏-天空揺籃)、川口隆夫、平井優子、カズマ・グレン 音楽・演奏(Vn.):辺見康孝

FUJIMOTO Takayuki + SHIRAI Tsuyoshi "Node / The Old Man of the Desert" \*World Premiere Aug.23(Fri.) to 25(Sun.)

平成25年度文化庁国際芸術交流支援事業

協力:KAAT神奈川芸術劇場(指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団)、大野一雄フェスティバル、BankART、LIG Arts Foundation、公益財団法人セゾン文化財団



photo: Hideto Maezawa

インディペンデントディレクター・照明デザイナーの藤本は、1987年よりダムタイプの照明・テクニカルマネジメントを担当、LED照明による有機的なデザインで自身の制作も行う。振付家・演出家・ダンサーの白井は、伊藤キム・輝く未来、Study of Live Works 発案を経て、現在ソロユニットAbsTをベースに、様々な形態で身体と空間・時間のダンスを模索している。藤本と白井によるプロジェクトは、2007年の「true/本当のこと」に続く2作品目。

やなぎみわ THEATER

『ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ』 **新作** 会場:小ホール

8月30日(金)19:00 8月31日(土)14:00/18:00 9月1日(日)14:00

6/29  
発売

◎31日14:00公演、アフタートーク有

前売:4,000円 当日:4,500円 学生(前売):3,000円 \*未就学児入場不可 ○Pコード:428-738

「ゼロ・アワー」とは、日本軍が太平洋戦争中に行ったプロパガンダ放送のラジオ番組名。「東京ローズ」は、その番組の女性アナウンサーに米軍兵士たちが付けた愛称で、戦後、アナウンサーの1人は国家反逆罪に問われることとなった。「声というアーカイブの亡霊」をテーマに、ベケットの戯曲『クラップの最後のテープ』からも想を得て、史実と虚構を織り交ぜた新作。装置デザインをトラフ建築設計事務所が、音声デザインをフォルマント兄弟が担当する。

作・演出・美術:やなぎみわ 音声デザイン:フォルマント兄弟 装置デザイン:トラフ建築設計事務所

出演:松角洋平、荒尾日南子、吉田圭佑、高橋紀恵 ほか

YANAGI Miwa "ZERO HOUR TOKYO ROSE'S LAST TAPE" \*New Work Aug.30(Fri.) to Sep.1(Sun.)

協賛:株式会社資生堂 制作協力:KAAT神奈川芸術劇場(指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団) 協力:丹羽幸株式会社



photo: 木村三晴

美術作家。1993年、京都で初個展を開催し、1996年以降、海外の展覧会にも多数参加。2009年には、ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表作家を務めた。主な作品に、若い女性が自らの半世紀後の姿を演じる写真シリーズ『マイ・グランドマザーズ』、実際の年配の女性が祖母の想い出を語るビデオシリーズ『グランドドーターズ』などがある。数年前から活動領域を演劇にも広げ、近代日本における諸芸術運動の成立・混淆をテーマとする「1924三部作」を制作・上演した。

梅田宏明 DANCE+MEDIA ART

『4. temporal pattern』 **日本初演** / 『Holistic Strata』 会場:小ホール

9月6日(金)19:00 9月7日(土)14:00/19:00 9月8日(日)14:00 ◎全公演アフタートーク有

6/29  
発売

前売:4,000円 当日:4,500円 学生(前売):2,500円 ○Pコード:429-169

『4. temporal pattern』は梅田の振付プロジェクト「Superkinesis」の4作目。アジアの劇場の共同企画として、インド、カンボジア、台湾の伝統舞踊のダンサーと共に、異なったダンススタイルを繋ぐ振付と動きのシステムを追求する。『Holistic Strata』では、梅田の特徴である光・音の表現に加え、ダンサーの身体とその運動によって生成される「身体情報」を核に、知覚を揺さぶるまったく新しいパフォーマンスを提案。これまでのダンスにはない空間表現としてのダンスである。

『4. temporal pattern』

振付:梅田宏明 映像・音・照明:S20 出演:ジョン・ユウ・ロン、ヘマ・スングリ・ヴェラルル、ラディ・ニェット

『Holistic Strata』

振付・出演:梅田宏明 映像・音・照明:S20

UMEDA Hiroaki "4. temporal pattern" / "Holistic Strata" \*Japan Premiere Sep.6(Fri.) to 8(Sun.)

平成25年度文化庁国際芸術交流支援事業 助成:公益財団法人セゾン文化財団、EU・ジャパンフェスト日本委員会

協力:National Chiang Kai-Shek Cultural Center, R.O.C., Esplanade - Theatres on the Bay, 山口情報芸術センター[YCAM]



【4. temporal pattern】 photo: S20

2002年より世界各地の主要フェスティバルや劇場に招聘される。自身の作品では振付・ダンスのみならず映像・音・照明デザインまでを担当する。2009年、振付プロジェクト「Superkinesis」を開始。近年はインスタレーションなど表現領域を拡げている。2010年、アルスエレクトロニカでHonorary Mentionを、2011年にはドイツのZKMでDance Awardを受賞。2013年、スウェーデン国立ダンスカンパニーで委嘱振付作品を、フランスでソロ新作を発表予定。

## イリ・キリアン DANCE

『East Shadow』 **世界初演** 会場：小ホール

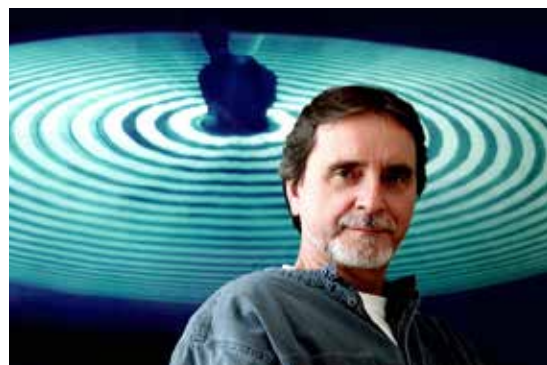
9月14日(土)19:00 9月15日(日)19:00 9月16日(月・祝)19:00  
前売:6,000円 当日:6,500円 学生(前売):3,500円 OPコード:429-170

7/27  
発売

親日家にしてベケットを深く敬愛するキリアンが、東日本大震災に心を痛め、ベケットの散文作品『……雲のように……』に着目して創り下ろした新作。長年のパートナーであるサビーネ・クップファーベルクと、ミュージカル『シカゴ』の振付も担当したゲイリー・クライストが出演し、ピアニストの向井山朋子、気鋭の映像作家ジェイソン・アキラ・ソンマらが参加する。ユーモアを交えつつ「生と死」を探究するダンス(＋映像)パフォーマンス。

振付・演出:イリ・キリアン 出演:サビーネ・クップファーベルク、ゲイリー・クライスト  
映像:ジェイソン・アキラ・ソンマ ピアノ:向井山朋子

Jiří KYLIÁN "East Shadow" \*World Premiere Sep.14(Sat.) to 16(Mon. National Holiday)  
平成25年度文化庁国際芸術交流支援事業  
協賛:日本ロレックス株式会社 後援:アメリカ大使館



courtesy of the Kylian Foundation

1947年プラハ(チェコ)生まれの振付家。1967年、英国ロイヤル・バレエ学校に入学し、1968年にシュツトガルト・バレエへ入団。1973年、オランダのハーグを拠点とするネザール・ダンス・シアター(NDT)の振付を初めて行い、1978年には芸術監督に就任する。1999年に退任したが、今日に至るまで70作以上をNDTと共に創作。パリ・オペラ座バレエなど、多数のバレエ団やダンスカンパニーもその作品を上演。武満徹、北河原温、新宮晋ら、日本の芸術家との協働も多数行っている。

## アルチュール・ノジシエル(オルレアン国立演劇センター) DANCE+THEATER

『L'IMAGE』 **日本初演** 会場：小ホール

9月22日(日)19:00 9月23日(月・祝)14:00 ◎全公演アフタートーク有  
前売:3,000円 当日:3,500円 学生(前売):1,000円 OPコード:429-440

7/27  
発売

ベケットによる同名の掌編小説をテキストとして用いた朗読＋ダンスパフォーマンス。原作は1956年に書かれたもので、死の床にあるとおぼしき男が、女や犬と共に過ごしたある春の1日を回想するという内容。数ページほどの短さだが、結語にたどり着くまで句読点は一切ない。朗読は女優ルー・ドワイヨン(映画監督ジャック・ドワイヨンと女優兼歌手ジェーン・バーキンの娘)、ダンスはダミアン・ジャレ、音楽はウィンター・ファミリーが担当する。

振付:アルチュール・ノジシエル 朗読:ルー・ドワイヨン ダンス:ダミアン・ジャレ 音楽:ウィンター・ファミリー

Arthur NAUZYCIEL "L'IMAGE" \*Japan Premiere Sep.22(Sun.) and 23(Mon. National Holiday)  
平成25年度文化庁国際芸術交流支援事業  
助成:フランス大使館/アンスティチュ・フランセ、アリアンソ・フランセーズ愛知フランス協会



photo © Christian Lartillot

ノジシエルは1967年パリ生まれ。造形美術と映画を学んだ後に、シャイヨー国立演劇学校で演劇を学ぶ。俳優として活動するかわら、シェイクスピア、モリエール、チェーホフ、ベケットから現代作品に至るまでの戯曲を多数演出。2007年からは、オルレアン国立演劇センターのディレクターを務めている。ダンサーのジャレは1976年ベルギー生まれ。ウィム・ヴァンデキエイユ作品に出演したほか、シディ・ラルビ・シェルカウイとの10年以上に及ぶ協働で知られる。

## 清水靖晃＋カール・ストーン MUSIC

『Just Breathing』 会場：小ホール

9月28日(土)18:00 ◎アフタートーク有  
前売:4,000円 当日:4,500円 学生(前売):2,500円 OPコード:201-764

7/27  
発売

サクソフォーンが「筒」であることを強調するサクソフォーン奏者と、コンピューターによって現前する音を自在に操る電子音楽家。2人の作曲家/演奏家が「呼吸＝空気圧＝音響」をテーマに、お互いの、観客との、そして「場」とのコミュニケーション/インタラクションを追求する。閉ざされていたはずの時間＝空間が、「インテュイティブロビゼーション(直感即興演奏)」によって開放される瞬間を、身体最小単位である細胞レベルで体感したい。

テナーサクソフォーン:清水靖晃 ラップトップコンピューター:カール・ストーン

SHIMIZU Yasuaki + Carl STONE "Just Breathing" Sep.28(Sat.)  
制作協力:Sateto



photo: 小西康夫

清水靖晃は作曲家・サクソフォーン奏者。J.S.バッハ「無伴奏チェロ組曲」を史上初めてテナーサクソフォーンのために編曲・演奏・録音し、1997年にアルバム『バッハ・ボックス』でレコード大賞企画賞を受賞。2007年には5音階作品を収めたアルバム『ベントニコ』を発表した。カール・ストーンは1953年ロサンゼルス生まれの作曲家。1972年に電子アコースティック音楽の作曲を始め、コンピューターミュージックの先駆者の1人とされる。多数の音楽家と共演する一方、中京大学大学院情報科学研究科(メディア科学専攻)の教授も務めている。

## ARICA＋金氏徹平 THEATER

『しあわせな日々』 **新訳初演** 会場：小ホール

原作:サミュエル・ベケット Samuel Beckett

10月12日(土)18:00 10月13日(日)18:00 10月14日(月・祝)14:00 ◎12日、アフタートーク有  
前売:4,000円 当日:4,500円 学生(前売):2,500円 OPコード:429-172

7/27  
発売

ベケットの代表作のひとつ。ひたすらしゃべり続ける主演女優が埋もれる小山のようなセットが目々を惹くが、その山を含む舞台美術をアーティストの金氏徹平が設計する。身動きが取れない状況の中、主役のウィニーが話し続けるのはなぜか?そもそも、なぜ山に埋もれているのか?新訳と新しい解釈、そして新たな舞台装置で、ベケットの世界が生まれ変わる。音楽家の福岡ユタカ(Yen Calling)が俳優として初めて舞台に立ち、安東陽子が衣裳を、イトケンが音響デザインを担当。

翻訳:倉石信乃 演出:藤田康城 出演:安藤朋子、福岡ユタカ(Yen Calling) 美術:金氏徹平

ARICA + KANEJUI Teppi "Happy Days" \*Japan Premiere with new translation. Oct.12(Sat.) to 14(Mon. National Holiday)  
著作権代理:株式会社フランス著作権事務所



『恋は眼/LOVE IS BLIND』2012年 photo: 宮内藤

ARICAは2001年、演出の藤田康城、テキスト・コンセプトを担当する詩人・批評家の倉石信乃、太田省吾が主宰した元転形劇場俳優の安藤朋子らにより設立。ビジュアルアートや音楽、建築などと呼応するパフォーマンスを上演して注目を集める。金氏徹平は、日用品などレディメイド素材を白い石膏や樹脂で覆ったコラージュの彫刻や、相異なる線画を延々とつなげてゆくドローイングなどで知られ、2009年には、30歳の若さで大規模個展を横浜美術館で開催した。



## ジェコ・シオンポ DANCE

『Terima Kos (Room Exit)』 日本初演 会場：小ホール

10月18日(金)19:00 10月19日(土)14:00 10月20日(日)14:00 ©19日、アフタートーク有

7/27  
発売

◎キッズワークショップ開催

前売:4,000円 当日:4,500円 学生(前売):2,500円 OPコード:429-173

故郷バブア州での日常生活の中の身振りと、ジャカルタのサブカルチャーであるヒップホップ、伝統舞踊からコンテンポラリー、さらには動物の動きまでを融合させて「アニマルポップ」という新しいスタイルを確立したジェコの代表作、待望の日本初演。バブアから都会に移住して初めて知ったアパートを舞台に、画一的な空間での居住によって変容していく人々の姿を通して、時間の堆積による環境や人間の進化と共同体の喪失を描く。

振付:ジェコ・シオンポ

Jecko SIOMPPO "Terima Kos (Room Exit)" \*Japan Premiere Oct.18(Fri.) to 20(Sun.)

平成25年度文化庁国際芸術交流支援事業

助成:アジア・カルチュラル・カウンシル 後援:インドネシア大使館



[Terima Kos (Room Exit)]

1975年生まれ。インドネシアはバブア州の州都ジャヤプラで育つ。幼少のころより伝統舞踊を学び、1994年にジャカルタ・アーツ・インスティテュートに入学してダンスを専攻。1999年、ヒップホップをアメリカのポートランドで学び、2002年には奨学生としてドイツのフォルクスヴァンク・ダンス・スタジオに滞在する。バブアの文化的背景を生かした独自のスタイルを追求しながら、振付作品を発表。作品は世界中のフェスティバルや劇場で上演されている。

## マチルド・モニエ DANCE

『ピュディック・アシッド』／『エクスタシス』 日本初演 会場：小ホール

10月26日(土)18:00 10月27日(日)14:00 ◎全公演アフタートーク有

7/27  
発売

前売:4,000円 当日:4,500円 学生(前売):2,500円 OPコード:429-174

マチルド・モニエとジャン・フランソワ・デュロールの協働により創作された2つのデュオ、1984年の『PUDIQUÉ ACIDE』と1985年の『EXTASIS』を、2011年に再振付したもの。常に前人未到の地を探し、自らに負荷を与えることでクリエイションを継続してきたモニエであるが、本作では既成概念に揺さぶりをかけるべく、制度におけるセクシャリティに疑問を投げかける。フランスのコンテンポラリーダンスの隆盛期を代表するモニエのデビュー作品。

振付:マチルド・モニエ、ジャン・フランソワ・デュロール 出演:ソニア・ダルボワ、ジョナタン・プランラ

Mathilde MONNIER "Pudique Acide" / "Extasis" \*Japan Premiere Oct.26(Sat.) and 27(Sun.)

平成25年度文化庁国際芸術交流支援事業

助成:フランス大使館/アンスティチュ・フランセ 協力:アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会



© Marc Coudrais

1959年生まれ。1986年に「Cru」にてパニエル国際振付コンクール・フランス文化省賞を受賞。1994年よりラングドッグ・ニルシヨンのモンパリエ国立振付センターの芸術監督を務め、異なったジャンルのアーティストたちとのコラボレーションシリーズを開始。特にジャズミュージシャンのルイス・スクラヴィスに影響を受ける。共同体の観点から身体や空間へのアプローチを行い、自閉症患者を対象とした活動にも取り組んでいる。アヴィニョン・フェスティバルにて多数の作品を発表してきた。

## 舞台映像 インスタレーション

## ペーター・ヴェルツ + ウィリアム・フォーサイズ DANCE (video installation)

『whenever on on on nohow on | airdrawing』 日本初公開

会場:愛知県美術館・ギャラリーG

8月10日(土)~10月27日(日)

国際美術展チケットにて入場可

ソロで踊るフォーサイズを5台のカメラ(内2台は本人が装着)で捉え、5チャンネルビデオで見せる巨大な映像インスタレーション。ベケット晩年の散文作品『いざ最悪の方へ』に由来する一文をフォーサイズが中空に刻み込む。東京国立近代美術館から豊田市美術館に巡回した『フランシス・ペーコン展』で展示される映像インスタレーション『重訳 | 絶筆、未完の肖像(フランシス・ペーコン) | 人物像を描きこむ人物像(テイク2)』は本作の姉妹作的作品。

Peter WELZ + William FORSYTHE "whenever on on on nohow on | airdrawing" \*Japan Premiere Aug.10(Sat.) to Oct.27(Sun.)

協力:ドイツ文化センター



(whenever on on on nohow on | airdrawing) Five channel video installation 2004, edition 5 + 2 AP Installation view Museum für Moderne Kunst MMK, Frankfurt photo: Klaus Peter Hoppe courtesy of the artist, Peter Welz | Studio

1972年生まれのヴェルツは、ロンドン、ニューヨーク、ダブリンなどでアートと映像を学び、彫刻や映像インスタレーションを制作・発表するアーティスト。1949年生まれのフォーサイズは、コンテンポラリーダンスの最先端を走り続けるアメリカ人振付家/ダンサー。ジョフリー・バレエ団、シュトゥットガルト・バレエ団などを経て、1984年にフランクフルト・バレエ団の芸術監督に就任。同バレエ団解散後の2005年からは、自ら率いるザ・フォーサイズ・カンパニーを活動の拠点とする。

## サミュエル・ベケット DANCE (moving image)

『クワッド』(予定) 会場:愛知芸術文化センター・小ホール周辺

8月10日(土)~10月27日(日)

ベケットが晩年に発表したテレビ作品。マントに身を包んだ4人のパフォーマンスが、正方形の各辺と対角線の上を、ある規則性に基づいて早足で歩き続ける。哲学者ジル・ドゥルーズは「ベケットのテキストはまったく明確である。空間を消尽することが問題なのだ。(中略)人物は正方形の四隅、四つの辺と対角線の上で、実現し、疲労する。しかし彼らは正方形の真ん中、対角線が交わる所で完了し、消尽するのだ」と書いている(『消尽したもの』宇野邦一訳)。

Samuel Beckett "Quad"(under negotiation) Aug.10(Sat.) to Oct.27(Sun.)

1906年、ダブリン(アイルランド)生まれ。フランス語と英語で書いた劇作家・小説家・詩人。『モロイ』に始まる小説三部作でヌーヴォー・ロマンへの道を拓き、『ゴドーを待ちながら』によって不条理演劇の巨匠と認められる。新しいメディアにも関心を寄せ、テレビやラジオ作品も創作・発表している。1969年、ノーベル文学賞を受賞。現代文学を革新したジェイムズ・ジョイスの助手を務め、現代アートの父マルセル・デュシャンとはチェスを通じての交流があった。1989年、パリにて死去。



photo: Yolanda Romero Guerrero

芸術監督:五十嵐太郎 パフォーミングアーツプロデューサー:小崎哲哉(統括)、前田圭蔵、藤井明子、唐津絵理 主催:あいちトリエンナーレ実行委員会、愛知芸術文化センター

## パフォーミングアーツ部門 「われわれはどこに立っているのか」

あいちトリエンナーレ2013のテーマは「揺れる大地」。パフォーミングアーツ部門も、このテーマに沿って世界最高水準の演劇・ダンス・音楽作品を精選しました。

2013年は、不条理演劇の最高傑作と言われる『ゴドーを待ちながら』の初演から60年の節目に当たります。演劇のみならず、ダンス、文学、映画、音楽、アートなど、20世紀後半のほぼすべての表現分野に影響を与えた名作です。作者のサミュエル・ベケットは、この作品その他によってノーベル文学賞を受賞しました。

ベケットの世界観は、トリエンナーレのテーマ「揺れる大地-われわれはどこに立っているのか:場所、記憶、そ

して復活」に極めて近いものです。今日、「われわれが立っている場所」を見つめ直すために、人間の生と死について思いを凝らした彼の作品ほどふさわしい舞台芸術はありません。今や現代の古典たるベケット作品に想を得た作品や、ベケット的な作品を中心に演目を編成。あいちトリエンナーレが委嘱し、世界初演となる作品も多数あります。お楽しみください。

(パフォーミングアーツ統括プロデューサー 小崎哲哉)

\*サミュエル・ベケットについては中面「クワッド」の作者紹介文をお読みください。

## まちなか公演

### 向井山朋子+ジャン・カルマン INSTALLATION+PERFORMANCE

『FALLING』 **世界初演** 会場:岡崎地区 康生会場 岡崎シビコ

8月10日(土)~10月27日(日) ◎週末ごとにパフォーマンス有  
国際美術展チケットにて入場可

「歴史の終わり」とさへ呼ばれることもある平板な高度消費社会の中で、我々が失ってしまった、いや、今も失い続けているものは何か? 百貨店の使われなくなったフロアを舞台に、鑑賞者それぞれが個別に体験する、生と死、歴史と記憶をめぐる小さな旅。音と静寂、光と影から成るインスタレーション/パフォーマンスを体験し、出口へとたどり着いたとき、鑑賞者は、それが死から再生へと向かう儀式でもあったことに気付かされる。

MUKAIYAMA Tomoko + Jean KALMAN "FALLING" \*World Premiere Aug.10(Sat.) to Oct.27(Sun.)  
協賛:株式会社ヤマハミュージックリテイリング名古屋店 協力:Koninklijk Conservatorium Royal Conservatoire



photo: Philip Mechanicus

photo: 向井山朋子

向井山はアムステルダム在住のピアニスト/アーティスト、イリ・キリアン、MERZBOW、伊藤キムラと数多く協働し、シドニー・ビエンナーレや越後妻有トリエンナーレにも参加している。カルマンはパリを拠点とする照明家/アーティスト。ピーター・ブルックらの舞台照明を手がける一方、クリスチャン・ホルタンスキー、ハイナー・ゲッベルス、グオルク・バゼリツ、大野一雄、田中浜、小沢征爾、坂東玉三郎らとコラボレーションを行っている。

### プロジェクトFUKUSHIMA!(総合ディレクション:大友良英) MUSIC

『フェスティバルFUKUSHIMA in AICHI!』 会場:オアシス21

9月7日(土)15:00(予定) 9月8日(日)11:00(予定) ◎親子ワークショップ開催  
料金:無料

「いまの福島」と「未来の福島」の姿を、東日本大震災によって大きな被害を受けた土地から全世界に向けて発信する「プロジェクトFUKUSHIMA!」をあいちに招聘。多数の人に参加を促し、それぞれが交流し、楽しみ、未来について考える場を創造する。少年期を福島で過ごした大友良英が総合ディレクションを行い、この夏に福島でも行われるフェスティバルのメイン催事「盆踊り」や、参加型ライブ「オーケストラFUKUSHIMA!」のあいち版などを開催する。

美術・大風呂敷・やぐら等舞台デザイン:アサノコウタ、中崎透  
出演:オーケストラFUKUSHIMA!、大友良英&あまちゃんスペシャルビッグバンド、遠藤ミチロウ、長見順、岡地曙裕、ピカ ほか

PROJECT FUKUSHIMA!(directed by OTOMO Yoshihide) "Festival FUKUSHIMA in AICHI!" Sep.7(Sat.) and 8(Sun.)  
助成:公益財団法人福武財団



photo: 藤井明子

福島出身あるいは在住の遠藤ミチロウ(音楽家)、大友良英(向)、和合亮一(詩人)の3名を代表とし、県内外から集まった有志によって2011年5月に立ち上げられたプロジェクト。同年8月15日に福島市内で『フェスティバルFUKUSHIMA!』を開催し、翌年は「世界同時多発フェスティバル」に拡大。インターネット放送局「DOMMUNE FUKUSHIMA!」の運営、学びの場となる「スクールFUKUSHIMA!」の実施など、複数の活動を継続的にやっている。

### ほうほう堂 DANCE+LIVE VIDEO

『ほうほう堂@おつかい』 **新作**

会場:長者町を中心とした名古屋市のあちこち、USTREAM中継  
パブリックビューイング会場:常瑞寺(長者町会場)

9月21日(土)15:30(予定)\*雨天順延 9月22日(日)15:30(予定)\*雨天順延 [予備日]9月23日(月・祝)  
料金:無料 ◎キッズワークショップ開催

ダンスでまちを巡る様子を、インターネットで生中継する新作パフォーマンス。まちのなかでパフォーマンスに出会えると共に、中継される映像作品としても鑑賞できる。名古屋をリサーチし、さまざまな建物やお店、人、植生、食べ物など、まちのすべてを舞台に現在のまちに見え隠れする昔の面影や記憶、新しく生まれた繋がりを、多面的にしかしさりげなく伝える。見慣れた日常的な風景が、サイトスペシフィックなダンスを通じてまったく違うふうに見えるかも。

出演:ほうほう堂(新舗美佳+福留麻里) 映像:須藤崇規

Ho Ho - Do "Ho Ho - Do @Landlady's Requests" \*New Work Sep.21(Sat.) and 22(Sun.)

協賛:株式会社Cerevo  
協力:長者町まちなかアート発展計画、長者町アートビュール実行委員会、NPO法人まちの縁側育み隊、NPO法人アートフル・アクション



photo: 新井梨里子

photo: 吉次史成

新舗美佳と福留麻里による身長155cmダンスデュオ。これまでに国内外20都市以上で作品を発表。2009年からは劇場から飛び出し、その日の天候や道行く人々を含め、その場所にしかない魅力や特徴を背景に、そのとき限りのスペシャルダンスを披露する「ほうほう堂@」シリーズを展開している。また、同一の振付に複数のミュージシャンが異なる音楽を合わせる「ほうほう堂×DJ!」シリーズを行うなど、ダンスの拡張を多種多様な方法で試みている。

# あいちトリエンナーレ2013 パフォーミングアーツ

AICHI TRIENNALE 2013 Performing Arts

## Ticket Information

チケット発売日

前期:6月29日(土)午前10時～、後期:7月27日(土)午前10時～ 発売開始

チケットについて

各公演のチケット料金は中面の公演情報欄をご参照ください。

- 学生券(25歳以下、中学生以上要学生証)は前売のみの取り扱いとなります。●当日券は500円増し。ただし前売券完売時、当日券が販売されない場合もあります。追加公演、追加席など状況により異なりますので、詳細はお問い合わせください。●4歳より入場できます(要チケット)。4歳未満はご入場いただけません。●小ホール公演の受付開始および当日券の販売は原則開演1時間前、開場は30分前からとなります。●小ホール公演は全自由席で、チケットに記載されている入場整理番号順にご入場いただけます。●チケットの払い戻し、再発行、観賞日時の変更はできません。●劇場公演のチケット1枚提示で国際美術展の当日券(団体割引を除く)1枚が1回に限り200円引(美術展で購入の場合のみ対象、他割引との併用不可)。●車椅子をご利用のお客様は、通常どおりチケットをお買い求めのうえ、前日までに実行委員会事務局までご連絡ください。

チケット取扱窓口

愛知芸術文化センター内プレイガイド TEL.052-972-0430

チケットぴあ TEL.0570-02-9999 <http://t.pia.jp/>

●あいちトリエンナーレ公式ホームページに、チケットぴあ「特設サイト」へのリンクを設けますので、そちらからもご購入いただけます。

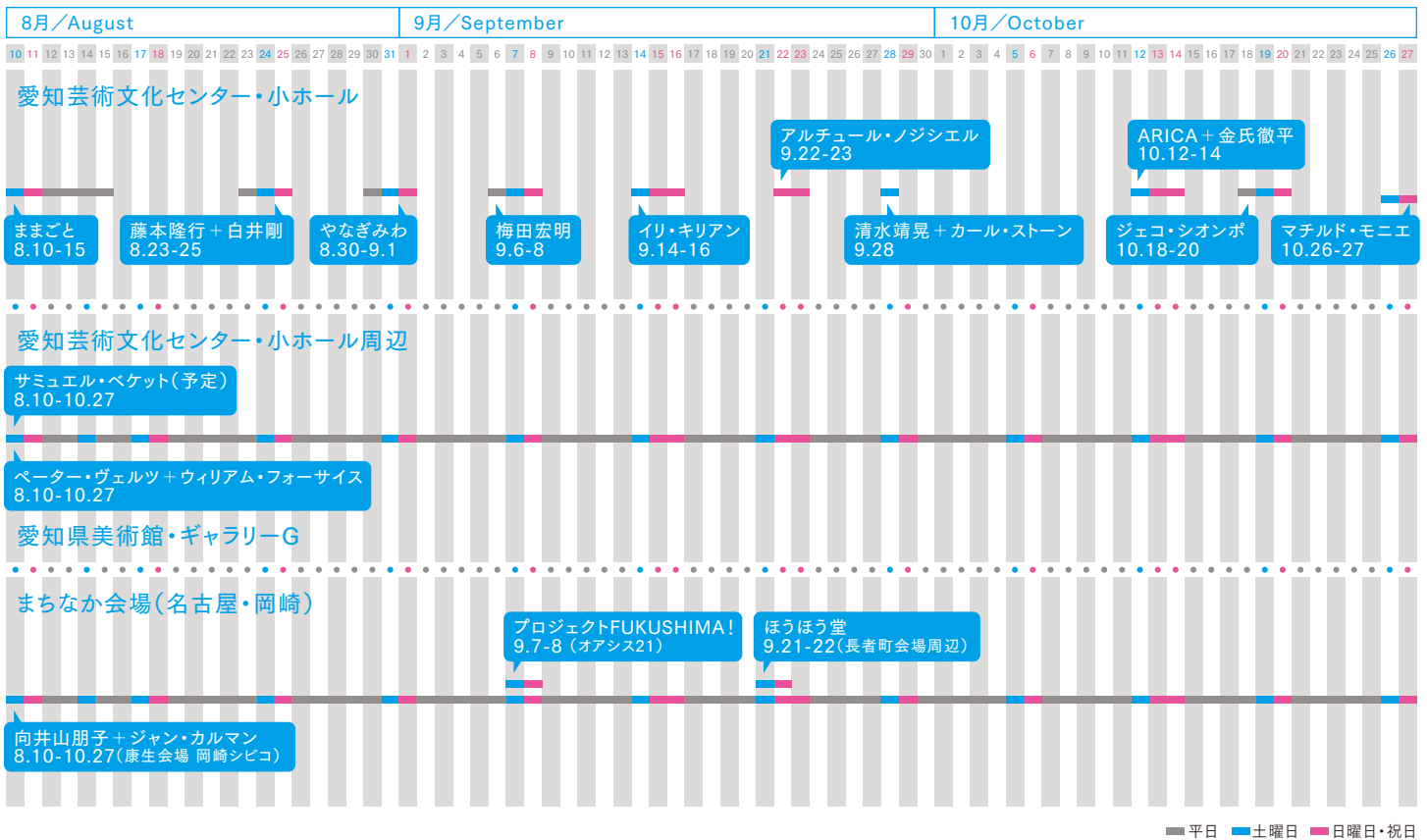
●チケットぴあ・Pコードについては中面の各公演情報欄をご覧ください。

劇場公演チケットに関するお問い合わせ

あいちトリエンナーレ実行委員会 TEL.052-971-6127

平日9:00～17:30受付

## Event Schedule



### 国際美術展

2013年8月10日(土)～10月27日(日)

### 交通機関のご案内

- 名古屋⇄東京間はのぞみ利用で約1時間40分
- 名古屋⇄大阪間はのぞみ利用で約1時間
- 名古屋⇄岡崎市内へは鉄道(名古屋鉄道)約30分
- 東海道新幹線最終電車(5月末日現在)
- 名古屋発22:10-東京着23:45
- 名古屋発22:57-新大阪到着23:45

### お問い合わせ

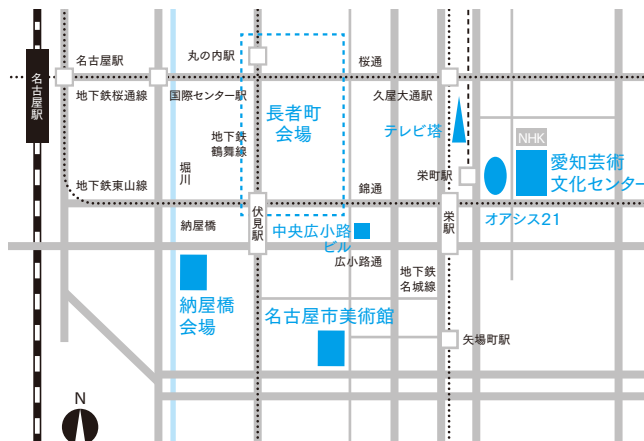
あいちトリエンナーレ実行委員会事務局  
〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2  
愛知芸術文化センター6F  
TEL.052-971-6127 FAX.052-971-6115  
E-mail: [pa@aichitriennale.jp](mailto:pa@aichitriennale.jp)  
<http://aichitriennale.jp/>

◎公演の詳細及び追加の情報等につきましては、ホームページでご案内させていただきます。

### 助成・協賛・協力

### [名古屋地区]

愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、中央広小路ビル、オアシス21、テレビ塔など



### [岡崎地区]

東岡崎会場、康生会場、松本町会場

